

第5回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 平成29年5月24日(水)

開会 13時30分

閉会 13時59分

2 会 場 金沢市庁舎 2階 201会議室

3 出席委員(6名)

教 育 長 野 口 弘

教 育 委 員 早 川 芳 子

〃 岡 能 久

〃 河 野 俊 寛

〃 大 島 淳 光

〃 丸 山 章 子

4 欠席委員(1名)

教 育 委 員 田 邊 俊 治

事務局

教育次長(兼)学校教育部長

担当部長(兼)教育総務課長

教育総務課担当課長(兼)課長補佐

担当部長(兼)学校職員課長

学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐

担当部長(兼)学校指導課長

学校指導課担当課長(兼)課長補佐

市立工業高校事務局長

生涯学習部長

生涯学習課長

(兼)家庭教育振興室長

図書館総務課長

(兼)玉川図書館長

(兼)近世史料館長

(兼)城北分館長

教育プラザ総括施設長

(兼)地域教育センター所長

研修相談センター所長

山 田 啓 之

加 藤 弘 行

中 西 賢 治

川 口 勝

吉 田 圭 史

新 村 裕 二

村 田 昌 人

堂 岸 豊

鳥 倉 俊 雄

藤 木 由 里

村 田 英 彦

高 村 政 博

熊 谷 有 紀 子

5 案 件

報告第11号 金沢子どもを育む行動推進委員会委員の委嘱等について

(教育総務課)

報告第12号 モデル校におけるコミュニティ・スクール事業の拡大について

(学校職員課)

報告第13号 夏季休業期間中における授業の実施について

(学校指導課)

報告第14号 研修相談センターにおける平成28年度教育相談事業について

(教育プラザ)

その他

(1) 平成29年度「全市一斉学校公開週間」の実施について

(2) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、傍聴希望者6名について協議し、傍聴を許可した。次に、議事録署名委員として岡委員を指名した。本日の議題について野口教育長が非公開にすべきものはないと発議し、全会一致で全て公開とすることを決定した。

審議に入り、報告第11号、報告第12号、報告第13号、報告第14号、その他(1)について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、6月の定例会議の開催日を次のとおり決定し、閉会した。

* 6月の定例会議の日程：平成29年6月28日(水) 13:30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 報告第11号 金沢子どもを育む行動推進委員会委員の委嘱について(教育総務課)

(説明の概要) 議案書2ページ。いずれも所属団体での役員変更に伴う委員の変更である。金沢市児童館児童厚生員会の会長交代により、中西裕美子氏に代え、中山通子氏。金沢市立小学校長会の会長交代により、武田秀一氏に代え、西川茂治氏。株式会社北國銀行人材開発室の課長交代により、中野隆史氏に代え、西出光氏。金沢市立中学校長会の幹事交代により、羽場政彦氏に代え、村上賢正氏を委嘱している。任期は前任者の残任期間である平成30年6月30日までとする。推進委員会の全体の委員名簿は3ページに記載のとおり。

|(特になし)

○ 報告第12号 モデル校におけるコミュニティ・スクール事業の拡大について(学校職員課)

(説明の概要) 議案書5ページ。事業概要については、学校運営に地域の方々が参画する「コミュニティ・スクール」について、今年度はモデル校を14の小中学校に拡大し、学校が抱える課題に地域と学校が連携して取り組むことで、「地域とともにある学校づくり」をさらに推進するものである。

モデル校は、昨年度から取り組んでいる中村町小学校に加え、今年度新たに13校を追加する。

今年度新たに実施する学校におけるスケジュールについては、7月をめどに保護者や地域住民への説明を行っている。8月には学校運営協議会委員を任命し、9月に第1回学校運営協議会を開催する予定である。10月以降はそれぞれの学校で月1回程度、協議会を開催することを想定している。

岡委員

(参考)に昨年度の実績として中村町小学校のことが書いてありますが、地域で友人もその会に参加していると聞きました。普段から各学校は地域との連携に大変努力しておられると思いますが、先生方の負担がまた増えてしまっただけだと心配していますので、その辺のことについて現場の声をもう少し聞かせていただければと思います。

川口学校職員課長	コミュニティ・スクールが開始されるまで、中村町小学校では地域との諸会合をたくさん開催していました。例えば学校評議委員会、学校関係者評価委員会、学校保健委員会等、地域の方々と交えての会合がたくさんありました。中村町小学校では、これらの地域との諸会合を全て学校運営協議会の中で実施したことで、まず地域との諸会合が減ったという報告を頂いています。それから、何よりも地域の方々が学校に頻繁にいらっしゃることで学校の課題を共有でき、いろいろな取り組みができたということで、実際に負担が減ったかどうかは分かりませんが、負担感は確実に減ったと聞いています。
岡委員	学校運営協議会が中心となって、あくまで学校は子どもと先生方が主役という考え方を崩すことなく、やっていただければと思います。
早川委員	平成 29 年度追加分の 13 の学校は、自らモデル校になりたいと希望したのでしょうか。地域ごとにちょうどいいモデルになるということで選ばれたのでしょうか。
川口学校職員課長	金沢市全体で地域と学校の連携を図るという観点から、まず中学校の通学区域にある小学校が全て同じ中学校へ進学する校区、いわゆる小中一貫教育という校区一体型の 11 校区の小学校で希望を募りました。希望を募ったところ、最初は中村町小学校を含めて 13 校で予定していましたが、13 校が希望したので、中村町小学校を含めて 14 校で実施することにし、全て学校からの希望で決定しました。
早川委員	来年また少しずつ増やして、できれば将来全ての学校がコミュニティ・スクールになっていくと考えればいいのでしょうか。
川口学校職員課長	将来的にはそのように願っていますが、まずは今年度 14 校で取り組みをしっかりと実施していただいて、検証していくことが一番だと思っています。
早川委員	モデルになってどうだったかという報告は、良い点や大変な点などを次に伝えていくために一番いいデータになります。よろしくお願いします。
野口教育長	中村町小学校は昨年 1 年間実践されていますが、中村町小学校の実践について、市内の小中学校に対して何かお伝えする機会があったのでしょうか。
川口学校職員課長	校長会議において、中村町小学校のコミュニティ・スクールの取り組みについて、市内の小中学校校長全て実践報告をしました。
野口教育長	その上で希望を取られたのですね。
川口学校職員課長	そうです。

○ 報告第 13 号 夏季休業期間中における授業の実施について（学校指導課）

（説明の概要）議案書 7 ページ。夏季休業中の授業の実施について 37 校から申請があり、金沢市立小学校、中学校管理規則により、いずれも承認した。実施に当たっては、児童生徒への負担を考慮すること、保護者の理解を得ること、学年単位以上とすることなどに配慮して行うこととしている。

実施校数の内訳は、小学校 13 校、中学校は 24 校全てである。

実施内容は、小学校では防災教育が 5 校、教科学習が 4 校、宿泊体験学習が 4 校、中学校では

テストを含めた教科学習を 24 校全校で実施するほか、防災教育 3 校となっており、学校の教育課程に位置付けて実施する。

実施日数は、小学校は 1～3 日で、1 日実施が 6 校で最多となっている。中学校は 2～6 日で、2 日間実施が 14 校、3 日間実施が 9 校となっている。実施単位はおおむね全学年での実施となっている。

野口教育長	基本的には新学期は 9 月 1 日スタートですが、学校の希望によって少し前から授業をスタートするという取り組みです。
早川委員	長期天気予報では猛暑だとの予報です。暑い夏の間は休むという趣旨の夏休み中に生徒たちが登校するわけです。熱中症予防のために扇風機を使うとか、水分補給の水を持参させるなど、ぜひ細かい配慮をしていただきたいと思います。
新村学校指導課長	今も運動会シーズンであり、熱中症対策については重々、校長会や保健主事の会合などで伝えていきます。夏季休業中についても涼しい午前中のみ授業を実施するところが多くなっており、扇風機はもちろん、日当たりを考えた場所等を意識しながら指導しています。

○ 報告第 14 号 研修相談センターにおける平成 28 年度教育相談事業について（教育プラザ）

（説明の概要）議案書 9 ページ。相談の受付状況は、平成 28 年度が 679 人、前年度が 658 人と増加傾向にある。相談の主訴で最も多いものは発達障害、次に不登校、情緒不安定の相談等となっている。

相談を受付した後、相談の方法としては、教育プラザの職員が対応するケースは、面接や電話により延べ 5,611 件で、昨年度と比べると若干減少しているが、学校での子どもの状況の確認依頼の申し出により、その内容によって職員もしくは専門相談員が学校に出向いたケースが 571 件と、少し増えている状況にある。

適応指導教室はプラザで開設しているものであるが、相談員との個別対応を必要とする方を対象に行っている「そだち Personal」が 73 人、3～4 人程度の小集団で支援する「そだち Friendship」は、中学生 7 人に対応した。これらの場合については、様態が良くなっていけば、各学校の教室を活用する形態の支援につながるよう行っているところである。

専門相談では、受付した相談者の依頼によって精神科医や小児科医、言語聴覚士等が専門的な相談に応じるものであり、平成 28 年度は 121 人と若干多くなっている。

電話相談については、今まで説明した教育相談とは別に、育児や学校に関する幅広い相談を匿名でも受け付ける「おはなし電話」などがあり、昨年度に比べて若干減少しているが、平成 25 年度は 1,515 件、平成 26 年度は 1,616 件と、長期的には増加傾向にある。

河野委員	適応指導教室について、目的が「社会的自立及び学校復帰を目指し」となっていますが、この中でどれぐらいの子どもたちが学校に戻りましたか。あるいは、先ほど様態が良くなって学校での対応となった、とおっしゃいましたが、プラザから学校に戻った子どもたちの数が分かれば教えてください。
高村教育プラザ総括施設長	平成 28 年度の数字はまだ分析中ですが、平成 27 年度は 83 人がこちらを利用されています。そのうち約 30 人が学校に復帰され、31 人ほどが引き続き利用しており、残り 20 人は中学校を卒業されました。
河野委員	学校復帰を目的とするのはいいのですが、学習支援の部分も少し気になっています。つまり、学校復帰は難しいけれど、学習はできているような

場合です。学習面でのサポートで、例えば実力テストを受けて改善したとか、テストを受けられるようになったというデータがあれば、教えていただきたいと思います。もしそこまで見ていないのであれば、学習支援についての分析もしていただければありがたいと思います。

高村教育プラザ総
括施設長

今のご指摘については、まだ分かりかねるところもあるので、今後そういうことも、可能な限り研究したいと思います。

早川委員

学習支援は、ここの相談員と全く違う分野ですよ。

河野委員

いや、そうではないですね。

早川委員

相談を受けている方は心理的なもので、その子どもたちの学習支援を行うのは国語、算数などの先生が行うイメージなのですが、そうではないのですか。

高村教育プラザ総
括施設長

今の早川委員の話も含めて、どういうことができるのかをまた考えさせていただきたいと思います。どこまでできるかはいろいろあると思いますし、委員のご指摘のとおり、いろいろと考えなければならぬ部分があると思うので、少し研究させていただきたいと思います。

河野委員

私から早川委員に答えますが、不登校の中にかかなりの数で学習障害がいるという論文があるのです。鳥取県のデータでは、学習障害と診断された子は、小学生が3~4割、中学生が5~6割、東京都の通級指導教室のデータでは、小学生が11%、中学生が50%というデータがあります。つまり、心理的な問題ではなく、学習がスムーズにできないが故に不登校になっている子たちがかなりいるので、それを踏まえて話をしました。

早川委員

学習サポートで先生方の負担が生まれるのであればNPO組織の支援は受けられませんか。例えばボランティア先進国のヨーロッパの国々やアメリカでは、ピラミッドがきちんとできています。例えばDVでシェルターにきた方でも、最終的に職業に就かせて社会に出すまでの段階は全てNPOがやっていることが多いのです。日本も長期間病院に入っている子どもたちは、病院の中で学習指導が行われていると聞いています。公でできないような隙間をプロフェッショナルなNPOが埋める時代に来ているのではないのでしょうか。

熊谷研修相談セン
ター所長

子どもたちの学習支援については、「そだち Friendship」では、月曜日から金曜日までの主に午前中、学習タイムを設けており、一斉授業という形態ではなく、実際、学習障害の子どもたちもいるので、個に応じて子どもたちの質問に答える形で職員が対応しています。

個別の適応指導教室については、大人と1対1で通ってくるということは、まずコミュニケーションが得意ではない子どもたちが非常に多く、コミュニケーションや人間関係づくりが重要だったりしますが、3年生になると、入試も絡んで学習が非常に大きくなります。個別の時間に学習を希望し、そうした学習が効果的である子どもたちについては、書くことをする子どももいますが、読むだけであったり、パソコン等を使ったり、個別の支援をしています。

ここ2~3年を見ていると、「そだち」での時間帯で学習を希望する方もいるので、その子どもたちのニーズに応じていますが、「学習は夜間に学校の担任の先生としたい」という要望があったり、少し元気になったら、学校の先生とかなり連携して準備しながら、テストだけは学校で受けて、先生方に採点してもらうこともあります。教室に入ってテストを受けること

は割と少ないのですが、学校の相談室で受けるなど対応していただき、登録されている子どもたちについては例年 100%受験して、進学しています。

早川委員

手厚いですね。生徒ひとり一人の個性を活かして対応していらっしゃるのには素晴らしいと思います。

○ その他 (1) 平成 29 年度「全市一斉学校公開週間」の実施について

(説明の概要) 議案書 10 ページ。地域に開かれた学校づくりを推進するため、今年度も全市一斉学校公開週間を実施する。保護者だけでなく、地域の方々にも児童生徒や学校の様子を見ていただければありがたい。5 月 26 日 (金) ～6 月 1 日 (木) の間、市立の小学校 55 校 (1 分校)、中学校 24 校 (1 分校)、市立工業高等学校で実施する。学校別の実施日や詳細な公開時間等は市のホームページに掲載する予定である。

特色ある取り組みとして、火おこし体験等の歴史体験学習、学校周辺の街路樹の花植え活動、地域の消防団を招いた加賀鳶学習などがある。

野口教育長

今週末の土曜日は運動会等がある学校もありますので、委員の皆さまにおかれましても、ご都合がつけば、ご参観いただけると嬉しいです。

以 上

会 議 録 署 名

教 育 長 _____ 署 名

教 育 委 員 _____ 署 名

(岡委員)